

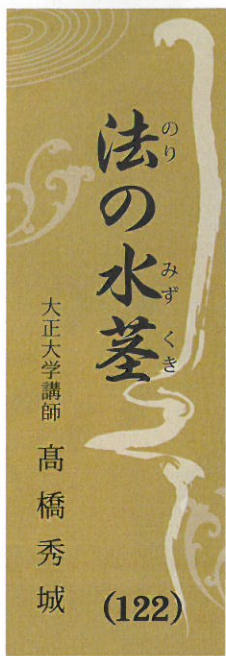
高尾山報

令和4年8月号

厄除開運

夏を告げる八王子市の市花・山百合と仁王門

山木源吉



大正大学講師 高橋秀城

法の水茎

(122)

八月一日は「地獄の釜の蓋が開く日」。関東地方の一部では、この日を「釜蓋朔日」と呼び、ご先祖様があの世から家々に向かつて出立する日と言いついて、とくに文学との関わりから書いてみたいと思います。

言うまでもなく、空海は真言宗の開祖（お開きになった方）です。恩徳を慕いつつ「南無大師遍照金剛」の七文字をお唱えになつていらっしゃる方もいらっしゃるのでは無いでしょうか。平安時代の初めに活躍なされた方ですが、今でも「弘法大師」の諡号（贈り名）に親しみを込めて「お大師さま」「お大師さん」と呼称されているのを見ると、私たちの心の中にもずっと生き続けているように思えます。

来る令和五年（二〇二三年）は、宗祖弘法大師空海御生誕二二五〇年の記念の年にあたります。間もなく二二五〇歳の誕生日をお迎えになるのです。

そこであらためてその御生涯を振り返つてみたいのですが、その功績はあらゆる分野に及んでおり、簡単に論じることが

とことはに
吹く夕暮の
風なれど
秋立つ日こそ
涼しかりけれ
（『金葉集』
春宮大夫公実）

ただ秋萩の
一枝も
仏の種は
結ぶとぞ聞く
（藤原定家
『拾遺愚草員外』）

お盆が近づけばミソハギ（萩）の花も咲き出します。整えられた精霊棚にお飾りして手を合わせれば、お帰りになつたご先祖様もきつと喜ばれるでしょう。

さて今月号からは、数回にわたつて弘法大師空海（七七四〇八三五）に

八月一日は「地獄の釜の蓋が開く日」。関東地方の一部では、この日を「釜蓋朔日」と呼び、ご先祖様があの世から家々に向かつて出立する日と言いついて、とくに文学との関わりから書いてみたいと思います。

言うまでもなく、空海は真言宗の開祖（お開きになった方）です。恩徳を慕いつつ「南無大師遍照金剛」の七文字をお唱えになつていらっしゃる方もいらっしゃるのでは無いでしょうか。平安時代の初めに活躍なされた方ですが、今でも「弘法大師」の諡号（贈り名）に親しみを込めて「お大師さま」「お大師さん」と呼称されているのを見ると、私たちの心の中にもずっと生き続けているように思えます。

来る令和五年（二〇二三年）は、宗祖弘法大師空海御生誕二二五〇年の記念の年にあたります。間もなく二二五〇歳の誕生日をお迎えになるのです。

そこであらためてその御生涯を振り返つてみたいのですが、その功績はあらゆる分野に及んでおり、簡単に論じることが

できませぬ。こと文芸との関わりから見ても、三筆の一人に数え上げられるほどの書家でもあり、すぐれた漢詩人でもあり、時には和歌を嗜み、また多くの伝説類も残されているなど、さまざまな場所での多彩な活躍が伝えられています。

空海については、平安時代の『空海僧都伝』や『弘法大師伝』といった書物に伝記がまとめられていますが、例えば平安時代末期の説話集『今昔物語集』の中にも出自から真言宗を弘めるまでの足跡が書き記されています。そこでまずは、『今昔物語



八月のお盆を過ぎると秋の風が吹いてくる

どの俗書を読んだ」（『今昔物語集』）という記述とも軌を一にするものではないでしょうか。幼い頃に仏教以外の書籍（外典）を学び、仏の道に興味を抱いて、やがて仏教の典籍（内典）へと分け入ったのです。その後、空海がどのような道を歩んでいったのか、それはまた次回といたしましょう。

身は
花とともに落つれども、
心は
香とともに飛ぶ。
（空海『性霊集』）

（この身は花とともに落ちたとしても、心は花の香りとともに広がる）

お盆に供えたミソハギの花は、やがてハラハラとこぼれ落ちるでしょう。ただ、ご先祖さまを敬う心は、秋を迎えても離れることなく、色あせることもありません。今に生きるお大師さまを慕いつつ、その余薫（恩恵）を、しっかりとこの身に焼き染めたいと思います。

（栃木北部教区普濟寺）

お知らせ

当山の責任役員執事長、管谷秀文僧正が、六月三十日をもって執事長を退任されました。

管谷僧正は、平成十五年十月十四日より責任役員執事長に就任され、長年に渡りその責務に精励し、高尾山発展に尽力されました。

尚、退任後は、ご自坊において檀信徒の教化善導に勤められます。

人事異動（八月二日付）

責任役員
執事長 犬山 秀康

『集』に語られている空海伝について見てみましょう。今となつては昔のこと。弘法大師という高徳の聖がおいでになつた。俗姓は佐伯氏、讃岐国（現在の香川県）多度郡屏風浦の人である。母親は、高僧が体内に入る夢を見て懐妊し、この子がお生まれになつた。

その稚児は、五、六歳になると泥で仏像を造つたり、草や木でお堂のような物を建てたりして遊んでいた。ある時には、八葉の蓮華の中で多くの仏さまと語り合う夢を見たが、それを両親にも誰にも語らなかつた。

両親はこの子を尊敬していた。またある人が見ると、四人の童がいつもこの子に従つて礼拝していたという。この子は「神童だ」と噂された。

母親の兄の一人で五位の貴族であった伊予親王という人に漢籍の手ほどきを受けた。その甲斐あつて、文章道が上達した。延暦七年（七八八）、

十五歳で京に上り、大学寮の学者に付き従つて、『毛詩』『左伝』『尚書』などを読み学んだが、それらはすでに前から理解しているかのようであつたという。

それなのに、この子は漢籍よりも仏道を好んで、しだいに出家をしようと思ひ始めた。そこで、大安寺の勤操僧正という僧に会つて、虚空蔵菩薩の求聞持法を学び、心を込めて念じ祈るようになっていったのである。

（『今昔物語集』巻十二）

ここに挙げたのは、出だしの一部分に過ぎませぬ。空海は子供の頃から仏さまに親しみ、周囲からは「神童」（非凡な才知を持った子）と呼ばれていたそうです。幼い頃から漢籍を学び、さまざまの書物に接しています。が、これは例えば空海の甥（もしくは姪の息子）にあたる智証大師円珍（八一四〇八九二）の伝に、「十歳にして『毛詩』『論語』『漢書』『文選』な

できませぬ。こと文芸との関わりから見ても、三筆の一人に数え上げられるほどの書家でもあり、すぐれた漢詩人でもあり、時には和歌を嗜み、また多くの伝説類も残されているなど、さまざまな場所での多彩な活躍が伝えられています。

空海については、平安時代の『空海僧都伝』や『弘法大師伝』といった書物に伝記がまとめられていますが、例えば平安時代末期の説話集『今昔物語集』の中にも出自から真言宗を弘めるまでの足跡が書き記されています。そこでまずは、『今昔物語

どの俗書を読んだ」（『今昔物語集』）という記述とも軌を一にするものではないでしょうか。幼い頃に仏教以外の書籍（外典）を学び、仏の道に興味を抱いて、やがて仏教の典籍（内典）へと分け入ったのです。その後、空海がどのような道を歩んでいったのか、それはまた次回といたしましょう。

身は
花とともに落つれども、
心は
香とともに飛ぶ。
（空海『性霊集』）

（この身は花とともに落ちたとしても、心は花の香りとともに広がる）

お盆に供えたミソハギの花は、やがてハラハラとこぼれ落ちるでしょう。ただ、ご先祖さまを敬う心は、秋を迎えても離れることなく、色あせることもありません。今に生きるお大師さまを慕いつつ、その余薫（恩恵）を、しっかりとこの身に焼き染めたいと思います。

（栃木北部教区普濟寺）



北口本宮富士浅間神社において



富士山中にて回峰行する山伏達

第十四箇度 霊峰富士登拝修行

七月五日(火)

七月五日、三年ぶりとなる第十四箇度霊峰富士登拝修行が行われました。未だコロナ禍が終息せず、感染症が拡大する状況を鑑み、行程を縮小しての執行となりました。

早朝、富士吉田の北口本宮富士浅間神社にて道中安全を祈願した後、雨が降る中を富士山五合目の小御嶽神社まで登拝しました。小御嶽神社にて正式参拝の後、法衆を捧げ、全国の御信徒様からお申し込み頂いた代参守の御芳名を讀上げ、富士山の風にて代参守をお加持致しました。

その後、再び北口本宮富士浅間神社まで下山し、佐藤貫首と共に正式参拝をし、無魔成満となりました。

自分自身を見つめる

第四十回 高尾山写経大会

七月二十四日(日)、夏の盛りを迎えた高尾山で第四十回高尾山写経大会が開催され、およそ六十名の方々が参加されました。

会場の有喜閣大広間に集まった参加者は開会式に際し、佐藤貫首をはじめとした山内の僧侶と共に般若心経を誦読し、その後一文字一文字に仏様を感じて自己を見つめながら、丁寧に写経されました。

また、昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症予防の為、自宅で写経して高尾山に納める在宅写経も合わせて実施し、約七十名の方々に参加を頂きました。

写経大会後には、本日書写頂いた写経と、郵送にてお送り頂きました写経の納経式が、佐藤貫首導師のもと厳修され、御本尊飯縄大権現様御宝前に、お納め致しました。

納経式では、皆様の諸願成就と共に、一刻も早い新型コロナウイルス感染症の終息を、御祈念申し上げます。



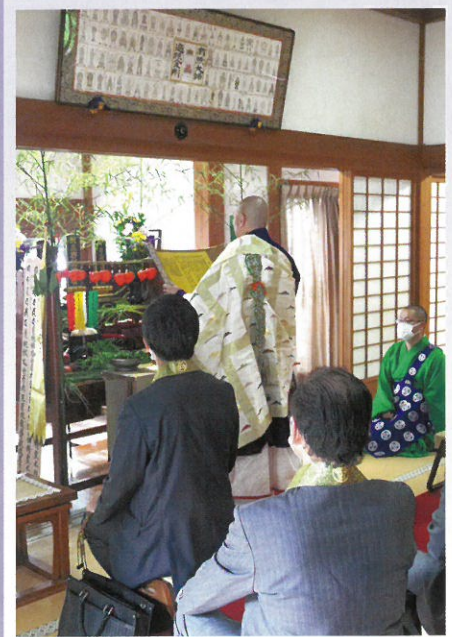
御本尊様御宝前に納められた写経



心を込めて丁寧に写経をする

高尾山お施餓鬼大法要

七月十二日 於・山麓不動院



盆迎え火 先師墓地参り

七月十三日



自然保護と経済活動の両立を目指し クラウドファンディングで杉苗奉納

七月十八日、高尾山の地元、八王子市立浅川中学校の生徒二名と引率の教師二名が、杉苗奉納のため高尾山を訪れました。

今回の杉苗奉納は、授業の一環としてクラウドファンディングと募金活動で奉納資金を募り、開発と自然保護の両立を訴えるため行われました。

生徒達は「総合的な学習の時間」の授業で、日本遺産「霊気満山 高尾山」について複数班に分かれて三年間学習しており、構成文化財の一つ、「高尾山の杉並木」について調べていた杉並木チームが、SDGs(持続可能な開発目標)の一つ、「陸の豊かさを守る」という観点から、杉苗奉納に興味を持つようになりました。

古来より高尾山の御信徒は、感謝と御礼の意味を込め、苗木を奉納するという習慣がありました。現在では形を変え、森林の保全費用に充てられております。今後も自然を守り発展させてゆくため、皆様と協力して参ります。



杉苗奉納の御札を持ち佐藤貫首と記念撮影

高尾山年代記

32

明治大学博物館 外山 徹

十五世賢秀 住職の交代と異動

傳法許可灌頂印信

昔大日如来開大悲胎藏金剛秘密部界會
授金剛薩埵金剛薩埵教百歳之後授龍猛
菩薩如是傳金剛秘密之道達吾祖師根本
大阿闍梨耶弘法大師既八葉今至愚身第
四十四代大悲胎藏四十三葉傳授次法師
資相承明鏡也小僧數年之間盡棄法之誠
幸隨先師法印大和尚位受傳許可秘印明
爰法印賢秀深信三昧真旨久學高部大法
機務相傳所授許可灌頂密印也能洗去塵之
深宜期八葉之達是則願佛恩各師德吾願如
此不可餘念矣

授与賢秀

享保七年十月六日
賢秀

傳授大阿闍梨法印賢秀

秀永から賢秀に授けられた印信(伝法の証書・法政大学多摩図書館寄託)

享保八年(一七三三)七月五日朝、高尾山中興第一四世秀永が入寂した。世寿六八歳とされる。後年、寛延三年(一七五〇)の高尾山縁起に特記される常法談所復興によつて薬王院の寺格を確固たるものとし、在住中には江戸や八王子周辺における永代護摩檀家の発生があり、多くの参詣客・参籠者を集める高尾山像を垣間見ることができた。

一五世賢秀の晋山

前年の七年一〇月には薬王院を道場として伝法灌頂が執行されており、秀永から賢秀に宛てた印信(写真)・付法状が遺されている。その端裏書には「老眼により悪筆大字ゆえ、未詰まりさうろう間、重ねて清書いたすべく」とあり、秀永が死期の近いことを悟つての執行であつたことが想像される。秀永の跡を継いで高尾山一五世となる賢秀については、享保六年十一月付の色衣免許願いの文面か

ら来歴の一端が知れる。この時点で四一歳、智積院留学は一ヶ年の長きにわたり、法臘二八年とあるので「四歳で仏道に入ったことになるが、当時は数え年なので現在であれば中学一年生の年頃である。賢秀は前号までしばしば取り上げた「年々諸用記」にその名が見える。当時の僧侶は仮名・実名と複数の法名を名乗ることがあり、享保六年の門末及び所化(修行中の僧侶)二覧の仮名倫貞・実名賢秀から、帳面に散見される倫貞(坊)が賢秀であることがわかる。

賢秀の急逝
賢秀が山主を継いだ翌年、享保九年は三月二日から開帳が始まつたことが、近隣の旧家の日記に記されている。開帳はおおむね三月〜五月頃に執行されるので、前年山主就任後の賢秀が企図したもののだろう。日記の主は四月七日に「高尾山参詣芝居見」と記している。開帳の出入を見込んで近辺で芝居興行が打たれる賑いだつたようだ。

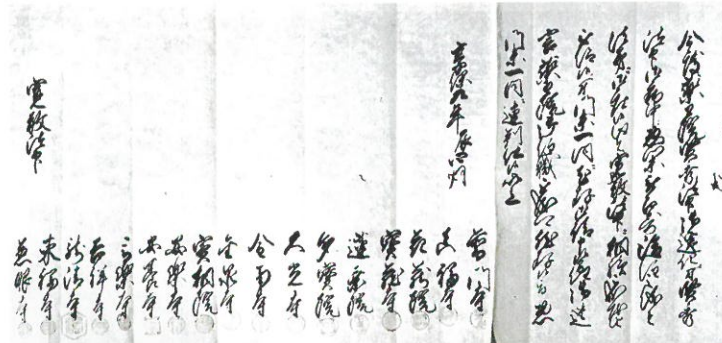
四月九日は朝から曇天であつたが、夕刻近くには大雨となつた。「この夜薬王院死去」と先の日記は記す。在住一年に満たず、将来を嘱望されたであろう山主は数え四四歳の若さで入寂した。

日記が五月一六日に「この日薬王院継目来る」と記すのは、第一六世山主を継ぐ秀憲のことである。それに先立ち、四月付の

山主後任に係る書面が残っている。それによると、賢秀法印御病中に惣門末召し寄せられ、後住の儀は法弟にござらうらえば寛致法印に相続なられたき由として、薬王院門末一同連印の上、寛致※すなわち秀憲に宛てて就任を要請している。文面にあるように、賢秀はすでに病

重きを悟り、末寺・門徒を呼び集め、寛致による後継を遺言したということである。書面には「今度薬王院賢秀法印御遷化につき」とあるので、四月九日以降の作成となるが、山主逝去の後、門末一同が後任候補者に対して就任を要請する形式が取られていたことがわかる。

寛致は三二歳の時、享保五年の寺中人別改では倫貞(賢秀)の次に名を連ねている。また、翌年改の所化の一覧にも名があり、秀永の弟子として在任していたことがわかる。気になるのは、一覧の名の脇に後筆で「金泉寺住」とある点だ。同寺については、寛致晋山と入れ替わりのタイミングで二二世永快の住職就任の書面



寛致(秀憲)に山主就任を要請する門末一同の連印(法政大学多摩図書館寄託)

が残るので、寛致は享保六年より後、相模国高座郡下九沢村(神奈川県相模原市緑区)金泉寺に移つた可能性がある。寛致の名は人別改の前年、享保四年三月、四月の行事の際に見ることができない。享保五、六年の一時期だけ高尾山に在任していたということだろうか。仮に門末から高尾山へ修行に來たとすると、非常に短い山にもかわからず、次代の山主として目されたことになる。

秀永弟子の異動

さて、件の「年々諸用記」にある門末・所化一覧は、前述のように筆跡に異同があり、各人の後日の動向が後々注記されていったものとみることができ。そこで、倫貞・寛致以外に享保五年(一七二二)の寺中人別改に名が見える秀山(二二歳)、心隆(二七歳)、心鏡(二〇歳)の動向を、当時の門末における住僧の異動の一端として紹介してみたい。

秀山(後永)は、宝蔵寺(門徒・八王子市長房町/現存せず)永快が金泉寺(当時は門徒・前出)に移つた(享保九年・一七二四)後任となり、さらに後には「蓮乗院(末寺・相模原市緑区)住」となつている。猪秀巖師による年譜は享保一九年に蓮乗院一三世秀鏞の就任を記すが、秀永弟子・前住宝蔵寺が一致し、秀山が改名したものと考えられる。

心隆(心龍・秀満)には「普門寺(末寺・相模原市緑区)住」と注記されている。中興五世秀永が秀満に宛てた元文二年(一七三三)付の印信が遺るので、住職交代時期の目安となるだろう。心隆四四歳にして筆頭末寺の住職となつたことになる。

心鏡(心教・秀賢)は大光寺(末寺・八王子市初沢町)隆信が真福寺(末寺・八王子市狭間町)へ移転の後に住持。時期は定かでない。その後、心隆(秀満)の後任として普門寺に入つている。

秀山は二六歳の時門徒住職に就任、一〇年後に末寺格の寺院に移つている。筆頭末寺である普門寺に秀永の直弟子(秀憲)とつての弟弟子が續けて入つているのも印象的である。

※1 秀憲の仮名は「寛教」とする例も多々あるが、「教」と「致」はくずし字として判別しにくい。ここでは、「年々諸用記」に明瞭に確認できる「寛致」の表記を採用した。

※2 末寺は総本山の法流を相承し祭儀の執行権を有する。

おことわり 本連載では史料の引用について、適宜読みやすく原文に手を加えています。

『いけばなの心』では、生花の作品を多くご紹介してきました。今回は今までは違う花形の作品をご紹介します。池坊に古くから伝わる『立花正風体』という形式の作品です。いけばなの発祥には仏前供花が大きく関わっています。立花は、その色を大きく残した花形です。



花材…蓮・河骨

蓮の花は、葉より長くなつた頃に開花するのが一般的です。一方でこちらの作品は葉より蕾を低く、また、蕾より開花を低く整えています。いけばなは、草木の持つ自然に醸し出される雰囲気大切にすることもあります。しかし自然をそのまま表現するのではなく、私たちの心で感じた理想の美しさを表現するものです。そして草木への憧憬を作品を通して、見る人と共感する事、それがいけばなを生ける喜びの一つだと思います。

いけばなの心 ③〇

華道教授 佐藤 宗明

高尾山物語 52

寛永古鐘

絵・橋本豊治

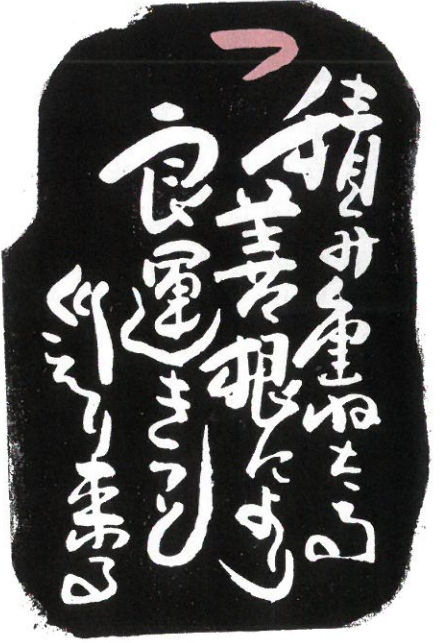


寛永の高尾山再興
寛永期には高尾山中興第十世亮秀のもと、薬師堂（現存せず）、大日堂（現在の大師堂）、護摩堂（現在の奥之院不動堂）、仁王門（現存）が建立されるなど、現在に繋がる伽藍の姿が見えてきます。

仁王門を通り大本堂に相對し右手を見ると、梵鐘が吊るされた鐘楼があります。現在の鐘楼は昭和四十九年（一九七四）に古式のまま再建されたものです。使用されている梵鐘は新しく鑄造されたものですが、鐘樓のすぐ脇には四百年近く前、江戸時代初期の寛永八年（一六三二）に作られた古鐘が安置されておりあります。

この「寛永古鐘」には当時の山内の様子を記した漢文の銘があります。それを読むと、戦国時代に高尾山を庇護した北条氏が滅亡して以降、一時は衰亡していた高尾山でありましたが、寛永期（一六二四～一六四四）になると相当数の参拝者を集めていたようで、僧侶や檀信徒が一丸となって協力し、再び繁栄の時代を迎えつつある光景が見えてきます。

いろは
天狗の落し文 19



つ 積み重ねたる善根により 良運きつと巡り来る

「積善の家には必ず余慶あり」という言葉にありますように、善い報い（結果）を生み出す源となる善行、すなわち善根を積み重ねることで、子々孫々に幸福を得ると伝わります。

善根を積むとは難しく聞こえるかもしれませんが、自分だけではなく、誰かの為に行う良い行為なのでしよう。人を思いやる心があれば、巡り巡って自分に返ってくるということなのです。

高尾山の昆虫

マツノマダラカミキリ



林業の著名な害虫として知られる松斑天牛。松類に穿孔して幼虫が栄養を摂ることで木を衰弱させるもの、それ以上に深刻なのは、体内に夥しい数の松枯れの元凶、マツノサイセンチュウを付けて活動することです。

マツノサイセンチュウは北米産で、明治時代に梱包材と共に日本に移入したとされる一ミリ程度の線虫ですが、爆発的な増殖をすることが知られています。線虫自体は自由自在に松の木に移動できませんが、マツノマダラカミキリの体にしがみつくことにより広範囲に拡散することが可能になり、松枯れの大きな要因になります。

こうしてマツノマダラカミキリが運搬屋として重要な役割を果たすことになり、本種が松枯れの戦犯として恐れられていること、根本的な原因となつていきます。

本種はヒゲナガカミキリの仲間であり長い触角を持ち、褐色のボディに白と黒の斑が入り、洗いながらもバランスが取れたカミキリだと思えます。

従来の生活サイクルでは松を加害するものの、大被害を与える存在ではなかったと思われ、図らずも外来の線虫の運び屋になってしまったために、大害虫の汚名を着せられてしまったのは、いささか気の毒な気がします。（撮影・文松島 孝）

観音菩薩の宗教

56

国際教養大学特任教授 金岡秀郎

観音菩薩の転生者としての聖徳太子 と太子と空海(2) (その19)

前号では鎌倉時代には、弘法大師が聖徳太子の生まれ変わりと伝えられていることを見た。弘法大師が今生のみの功德により高僧になったのではないとする信仰は、夙に大師入滅直後の『弘法大師二十五箇条遺告』に見られる。『弘法大師二十五箇条遺告』は略して『御遺告』とも呼ばれるもので、弘法大師が弟子たちに残した遺言である。

そこには大師入滅後に弟子が守るべき戒律や、東寺などの制度、宮中などでの修法の規定、さらには大師の伝記などが二十五箇条に亘って述べられている。その成立に関しては、大師の真撰、後世の述作など諸説があるが、

「夫れ以れば、吾れ昔生を得て父母の家に在りし時、生年五六の間、夢に常に八葉蓮華の中に居坐して諸仏と共に語ると見き。然りといへども専ら父母に語らず、況んや他人に語らんや。この間、父母偏に悲んで字して貴物へ多

布度毛能止号す。年始めて十二なりき。爰に父母曰く、『我が子は是れ昔仏弟子なるべし。何を以てかこれを知る。夢に天竺国より聖人の僧来たりて、我等が懐に入ると見き。是の如くして妊胎して産生せる子なり。然れば則ちこの子を賣して、まさに仏弟子となさんとす』と。吾れ若少の耳に聞き喜んで泥土を以て常に仏像を作り、宅の辺に童堂を造つて彼の内に安置して礼し奉るを事としき」

「そもそも思いめぐらしてみれば、わたくしがむかし生まれて、両親の家に住んでいたとき、五六歳のころ、いつも八葉の蓮華の中に坐つてもろも



稚児大師像。八葉蓮華に坐して諸仏と語り合う幼児の弘法大師の図。Art Institute of Chicago蔵。室町時代(15世紀)

るの仏たちと言葉を交わしている夢を見た。しかし、そのことは父母にもまったく語りすることがなかったし、ましてや、他人に語ることはなかった。この子供のころ、父母の愛情を一身に受け、貴物と呼ばれて育つた。十二歳になったとき、父母はつぎのように話した、『わたくしたちのこの子は、むかし仏弟子だったに相違ない。なぜかといえ、夢に天竺国(インド)から聖なる僧がやってきて、わたくしたちの懐に入るのを見た。そして、このようにして懐妊して生まれた子だからである。だから、この子はいずれ仏弟子にしよう』と。わたくしは子供心にこのことを聞いて喜び、いつも泥土で仏像を作り、屋敷の近くに(木片を集めては)小さなお堂を造つて、その中に仏像を安置して礼拝供養の真似

事をするのを遊びとしていた」

上述の一節を解説する。弘法大師は俗名を佐伯眞魚といつたとされ、宝亀五(七七四)年、讃岐の豪族の家に生まれた。「御遺告」には、恵まれた環境のなか、両親に「貴物」と呼ばれて溺愛されたことが記されている。母方の叔父である儒学者の阿刀大足をはじめ、儒教的な環境で生育したにもかかわらず、大師は幼児より深い仏縁を有していた。五、六歳の時、夢で八葉の蓮華に座して諸仏と語り合ったというが、それは後の弘法大師が唐より齋した胎蔵曼荼羅の中央の中台八葉院に描かれる仏の世界を示唆している。

次に告げられるのが、弘法大師の転生説である。それによれば、父母の夢にインドの聖僧が現れ、懐に入ったところ弘法大師を懐妊したという。すでに触れたように、これと類似の懐妊説は聖徳

太子の伝記にも見られる(拙稿「観音菩薩の宗教」(38))。すなわち、聖徳太子の母が金色の僧侶の口の中に入るのを見て懐妊したとする『聖徳太子傳曆』の所説である。「御遺言」は承和二(八三五)年成立、「聖徳太子傳曆」は諸説に従えば十、十一世紀とされる。ここで両説の系統論的關係を明らかにすることは控えるが、文化、ことに仏教上の偉人が前世の功德を相続しているとする思想が平安期には広く受容されていたと窺知できる。前世と今生を業により結びつける思想の淵源が、五四七話を有するブツダの前身話「シャータカ」説話にあることは明白である。前号で見た、聖徳太子と弘法大師の結びつきも、叙上の背景なくしては成り立たぬ思想であった。

これまで見てきたように(拙稿「観音菩薩の宗教」(42)以降)、聖徳太子は観音菩薩の化身と信ぜられてきた。その太子の

生まれ変わりが弘法大師とするならば、必然的に弘法大師の前世も観音菩薩に辿り着くことになる。一説に真言僧の寛信(一〇八四〜一五三)が著したとされる東寺の記録『東要記』(別名『東寺記録』)あるいは『宗要記』には、そうした功德の連続について以下のように述べている。

「神仙記云。聖徳太子是大師前身也云々。先徳傳云。聖徳太子是救世觀音也。此菩薩本是金銅之法形菩薩也。後更鑄造寶冠戴其首。此菩薩跌在銘號如意輪觀音。爰知大師本地如意輪觀音歟」(続群書類従完成会『續群書類従』第二十六輯下、巻七百七十三、三九七頁下段。平文社、訂正三版、一九七八年)

金銅の法形の菩薩なり。後に更に寶冠を鑄造して其の首に戴る。此の菩薩の趺に銘ありて、如意輪觀音と號す。爰に大師の本地は如意輪觀音と知る歟」

「湯河玄圓所造日本神仙記云。弘法大師者昔爲勝曼夫人。爲思禪師。又於日本國爲聖徳太子。後世爲弘法大師」(続群書類従完成会『續群書類従』第二十八輯上、巻八百十八、三〇一頁上段〜下段。平文社、訂正三版、一九七八年)にも見える。ここでは、弘法大師は前世で勝曼夫人であり、後に思禪師すなわち南嶽慧思となつたとする説、および日本では聖徳太子が後に弘法大師に生まれ変わったと述べられている。

「神仙記」が述べることは、聖徳太子は弘法大師の前世のお身体であったなどという。過去の徳ある僧が伝えていうことには、聖徳太子は救世觀音であると。この菩薩はもと金銅製で、僧侶の姿をした菩薩であった。後にさらに宝冠を鑄造して、その首に載せた。この菩薩の趺に銘文があつて、如意輪觀音と名付けている。これにより、大師の本地は如意輪觀音と知れるのではなからうか」

ここに引用される『神仙記』は、諸書に引用される湯河玄圓菩薩造『日本神仙記』で、一説に大江匡房の『神仙記』の注釈書とされる。同様の引用は弘長三(一二六三)年に書写された『高野山順禮記』の

「東要記」の述べるところである。

健康登山者投稿作品

季節の絵手紙「やすらぐ心」

八王子市 栃谷玲子 様



一步一步煩惱滅除

百八の階段を昇り、悩みや煩い事を取り除きましょう

八段 譲り合いの心を忘れない

自分の損得を優先して、他人を思いやらないことがあるでしょう。自分の考えを持つことは必要なことですが、世界には大勢の自分以外の人があります。人間関係を築くためにも、他人の考えを理解して行動してみましょう。

高尾山 季節散歩

暦の言葉 「七十二候」 天地始肅

「てんちはじめてさむし」

八月二十八日〜九月一日頃 「肅」とは静まる、弱まるという意味で、夏の暑さが和らぐ頃という意味です。 日中はまだまだ暑い日が続いておりませんが、もう少しすると朝晩には涼しさを感じるようになることでしょう。

今月の風物詩

甲虫

カブトムシは「昆虫の王様」とも呼ばれ、クワガタムシと並び、代表的な夏の昆虫です。クヌギなど広葉樹林に生息し、昼間はあまり活動しませんが、夜になると、クヌギやコナラなどの樹液や熟した果実に集まる姿が見られます。

百観音霊場巡礼 (30)

厚木市 荒井 一雄

秋遊滑河山龍正院

乳飲子と

若婦院内童謡吟

かかへ夕暮れ人目さけ 「乳控板」と撫で祈る嫁

合掌懇求撫胸襟

秋、滑河山龍正院に遊ぶ (乳の出の悪き)若婦は境内にて

母乳育児學繼母

童謡(子守唄)を唄ふ… 合掌・懇願し胸襟を撫でる…

毎晩祈拜観世音

『母乳育児』を姑さんに学び、 毎夕観音様を祈り拜す…

薬王院インスタグラム紹介

高尾山では、インスタグラムを用いて各種行事や四季が移ろいゆく風景を、写真や動画で御信徒様にお届けしております。 これからも様々な写真や動画をアップしていきます。是非ともフォローをお願い致します。

下記のQRコードか URLから 検索ができます。



TAKAOSAN_YAKUOIN

instagram.com/takaosan_yakuoin/

おはなし散歩道 飢饉と狐森

湯沢町 富樫 あい子

天明三年

「これは飢饉だ！」

人々は天候不順と凶作続きで、食べ物の買い占めや売り惜しみをしている富豪商人たちにたまりかねていた。

この年、田植えなのに綿入れを着て火に当たるとほど寒い。七月には浅間山が噴火した。作物は火山灰に埋もれた。秋になっても収穫出来る物がない。代官所に食料拝借願いを出したが、互いに貸し借りしてしのげない。

「もう、無理だんべ！」 「今やらなきゃ、皆がくたばる！」

関東の山奥、二十八世帯の開墾村の人々が、作業の合間に打ち毀しの相談を始めた。

「招集をかけるか？」 村の長、伝兵衛が、沈

黙している村人を見た。

「待て、戦って得する事は何もない。開墾して田畑を増やし、穀物を作るのだ。孫子のために！」

長老の茂爺がいう。 「じゃ、虫峠のいたずら狐の森も開墾するか！」

威勢の良い銀次が言った。 茂爺の目が光った。

「あそこは、稲作の神、稲荷様の住処だ！」

「でも狐森は日当たりも良いし平地も多いぜ！」

「ダメ、ダメだ！」

茂爺の小豆の様な目が銀次をにらんだ。

天明三年は何とか乗り切ったが年明け早々、峠の麓の村から『集合場所は未定。準備せよ』と打ち毀しの通知が来た。

「本当に、やんだべか！」 村人は半信半疑だ。

「豪商たちは穀物を隠し始めたよ！」

「何処の店をやるのだ！」

「そりや、分かんね」 村人は首を振った。

狐森に住む狐たちも騒めいている。

通知だ！ 『新町の権現堂境内、夜九時集合』

開拓村から新町まで二時間はかかる。村人二十数名は銀次を先頭に斧、鋤、鋸などを持ち新町へ向かうと、狐森の虫

坂に役人が松明を振って通行止めをした。

「待て、こっちへ来い」と銀次たちを狐森に引きずり込んだ。

「何すんだ。おいら急いでいるんだ！」

「ここで待て！」

役人は狐目で睨んだ。

伝兵衛と茂爺が、飢饉で苦しい事情を役人に話した。

「待て、分かっている」 麓から逃げて来る女や子ども泣きわめく声。

打ち毀された豪商が荷駄を引いて峠を上がった来る。役人があわただしく取り押さえて狐森へ引きずり込む。

「穀物の隠し場所はどこだ？」

「豪商は小声で話した。案内しろ。荷駄に積むんだ。銀次お前も行け」

銀次は啞然とした。

「早く！」の合図に役人数名と豪商を連れて森を出て行った。

森はシーンと静まり狐森は霧に閉ざされた。すると神々しい声が流れてきた。

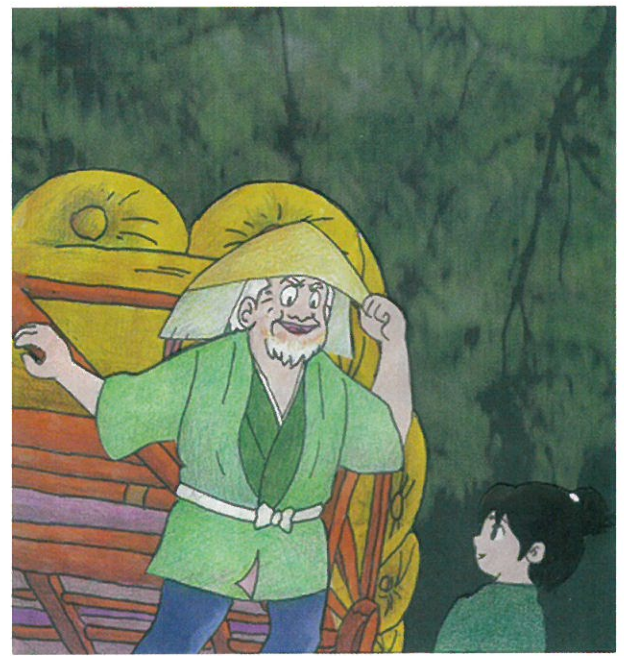
「茂爺、狐森を守ってくれてありがとう。ワシたちも安心して過ごせた。」

この森も開墾して、孫子を育てよ。ワシらの孫子(役人?)も疲れて尻尾が出るころだろう。豪商の蔵から穀物を運びだし分け合い、共に生きるのだ。茂爺頼んだぞ！」

神の声が消えると霧が晴れた。打ち毀しの足止めをされた村人と茂爺は、長々平伏していた。

その後、いつも開墾村からは笑い声が天に響いていたそうだ

(挿し絵・小出 茂)



高尾山健康登山親睦会 高尾山清掃



高尾山健康登山親睦会では、毎年、有志の方々が集まり、ゴミ袋を片手に高尾山を清掃しております。六月二十九日、一行は参道のゴミ拾いをしながら山を登って信徒休憩所にて合流し、その後は登山道に分かれてゴミ拾いを続けられました。会員の皆様は「自分が登る山だから、きれいな山にしたいね。」とお話されていました。

高尾山内八十八大師巡拝のご案内
一つのグループに分け、途中(山上十二丁目茶屋前第十七番札所)で合流し、一緒に巡拝致します。
A、不動院から蛇滝を経由して薬王院まで歩く
B、ケーブルカーを利用する
(蛇滝周辺のお大師様は巡拝できません。また、ケーブル代金は自己負担になります。)

また、ホームページからお申込みすることもできます。下記のQRコードよりアクセスして頂き、必要事項をフォームに入力して下さい。

締め切り 九月三十日(金)
〒一九三二八六八六
八王子市高尾町二二七七
大本山高尾山薬王院 八十八大師係
*申し込み締切り後、請書(行程表・持ち物等)をお送り致します。
*尚、新型コロナウイルス感染症の状況により行程等に変更がある場合があります。



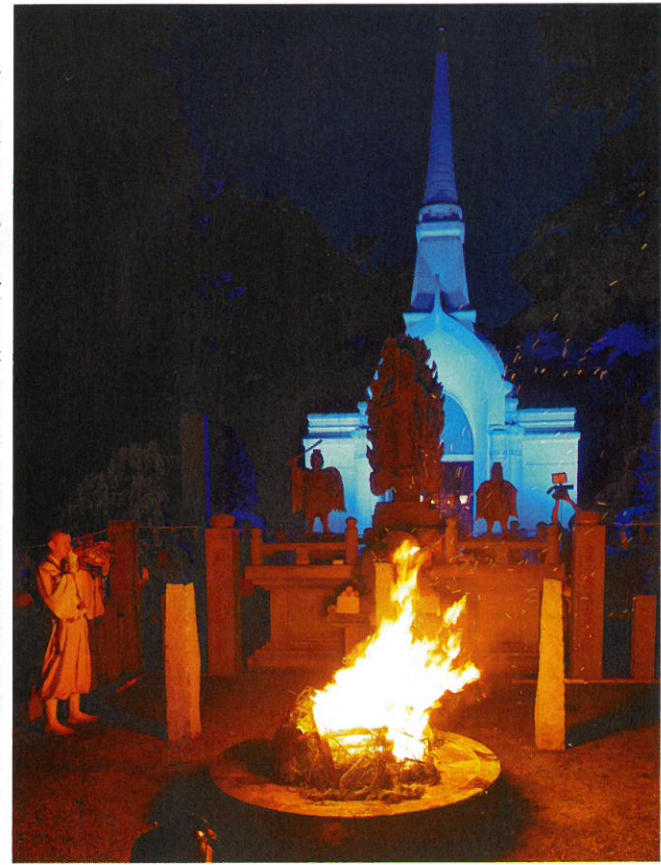
第二百一十回 信徒峰中修行会のお知らせ

本年の十月八日〜九日に予定されております「信徒峰中修行会」につきましては、新型コロナウイルスの流行が未だ終息していない現状を鑑み、平常時とは異なる修行内容を検討しております。実施日程及び修行内容等の詳細につきましては、現在山内において、協議しております。ご参加をお考え頂いている皆様には、ご迷惑をお掛け致しますが、ご理解頂きますようお願い申し上げます。尚、日程や詳細等につきましては、高尾山報の九月号、また、薬王院ホームページにて発表させていただきます。

高尾山信徒峰中修行会係
☎〇四二・六六一・一二二五

夏の高尾山 清涼体感めぐり 灯りの巡礼

真夏の高尾山では、八月二十日及び二十一日の両日に「灯りの巡礼」と称し、夕暮れ時から参道の春日燈籠に灯りが点されます。また有喜苑では、全国の医療従事者に感謝の念を届けるため、仏舎利塔を青く照らし出す「ブルーライトアップ」を行い、御信徒の皆様から御奉納頂きました紙燈籠を献灯致します。二十日には夕闇の有喜苑において、柴燈大護摩供を厳修し、医療従事者の皆様の身上安全、身体健全並びに罹患者平癒を、一心に御祈念させていただきます。



青く照らされる仏舎利塔の前で柴燈大護摩供が厳修される

紙燈籠奉納のご案内

高尾山有喜苑で執り行われる「灯りの巡礼」にて、本年も八月二十日、二十一日の両日に紙燈籠を献灯致します。全国の医療従事者の皆様に感謝の念を届けると共に、御信徒の皆様方の願いを込めた紙燈籠が夕闇を照らし出します。紙燈籠には奉納者名と願い事を記して、諸願成就を御祈念致します。奉納を御希望の方は、ハガキ又はFAXにてお申込み下さい。ご不明な点等ございましたらお問い合わせ願います。

紙燈籠 二千元
特別紙燈籠 一万円

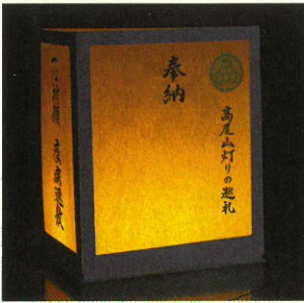
※特別紙燈籠をお申込みの方には柴燈大護摩供の際、ご芳名を奉読致します。

お申込み方法
ハガキ又はFAXに郵便番号、住所、氏名、電話番号及び願い事を明記の上、お申し込み下さい。

〒一九三二八六八六
八王子市高尾町二二七七
高尾山薬王院 信徒課
灯りの巡礼係
TEL 〇四二・六六一・一二二五
FAX 〇四二・六六四・二二九九

締切り 八月十七日(水)

特別紙燈籠
紙燈籠





暑中お見舞い

申し上げます。



令和四年盛夏

毎日の
お護摩奉修時間

(4月15日～10月31日まで)

午前5時30分
" 9時30分
" 11時00分

午後0時30分
" 2時00分
" 3時30分

ご講中・団体等御相談
下さい。

九月行事日程

一日～七日

聖天秘供(聖天堂)

一日、十三日、二十五日

弁天様御縁日

五日、二十七日

御詠歌勉強会(十時山麓不動院)

八日

仏舎利詣り(仏舎利塔)

十日、十一日

聖天堂開扉法要

二十四日

月例写経会(十三時山麓不動院)

二十五日

高尾山とんとんむかし

「語り部の会」

(十二時半山麓不動院)

二十八日

奥之院開扉供養(十時奥之院)

高尾山報助成金志納者
御芳名(順不同・敬称略)

八王子市 上野 千恵子

" 平 林子

小平市 池田 順子

八王子市 鈴木 幸男

" 佐戸 正幸

富里市 森 照森

八王子市 天野 章雄

" 石田 博司

" 増山 道雄

小平市 関 進

二十二日

飯縄様御縁日

神徳報謝百味飲食供

(九時大本堂)

☆神徳報謝百味飲食供

高尾山御本尊飯縄大権

現様の日々の御加護に感

謝し、沢山の御供物を捧げ

て御本尊様威光倍増の為、

御供養申し上げる法要で

す。

皆様の御志納を受け付

けておりますので、ご希望

の方は大本堂までお申し

出下さい。尚、法要終了

後に百味のお札を授与致

します。

毎月二十二日午前九時勤修
御志納金 一口三千円以上

吉野川市 鈴木 和加代

世田谷区 飯嶋 春江

新座市 彰山 粧麗

八王子市 地藤 健史

府中市 永田 新一

相模原市 菩提 鍼灸院

千葉市 市川 麗子

江東区 中村 幸雄

北区 鈴木 あい子

羽生市 藤田 安子

松本市 小林 幸平

高尾山健康登山者一同

◆休載のお知らせ

波多野重雄先生による
連載「折り折りの記」は、
都合により休載とさせて
頂きます。

高尾山報助成金

御志納のお願い

当山では、大護摩修行
等により御縁を結ばれた
御信徒様に高尾山報を
送っております。

引き続きのご愛読され
ますよう、皆様方の助成
金御志納をお願い申し上
げます。



高尾山薬王院ホームページ
<https://www.takaosan.or.jp>

下記のQRコード
から高尾山薬王院
のホームページに
アクセスできます



発行所
東京都八王子市高尾町2177
大本山
高尾山薬王院
郵便番号 193-8686
電話(042)-661-1115(代)
FAX(042)-664-1199
発行人 犬山 秀康
編集人 菅井 倫浩
印刷 ヒラツカ印刷社
毎月1回1日発行
1部50円